

河川財団ニュース

Newsletter from The River Foundation



写真：荒川河川敷に 18 ホールの本格的なパークゴルフ場としてオープンした「扇河川健康公園パークゴルフ場」

巻頭言

東北地方整備局副局長 渥美 雅裕… P2

Hot Topics

【東京都初】荒川・扇河川健康公園に本格的なパークゴルフ場がオープンしました… P3

特集

「河川研究セミナー」について…………… P4

ニュースの項目

【報告事項 1 調査研究等】…………… P6

1. 「第 12 回河川財団研究発表会」の開催
2. 戦略的維持管理研究について
3. 河川を学ぶ～平成 26 年度「河川塾」の活動状況～
4. 平成 25 年度を受託業務の表彰について

【報告事項 2 河川教育関係】…………… P7

1. 今年の水難事故の概要、水難事故防止の啓発活動
2. 川の指導者（RAC リーダー）養成講習会の開催
3. E ポート指導者養成講習会の開催
4. RAC 学校リーダーの第 1 号が誕生！
5. 「第 14 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 五ヶ瀬川」に参加
6. 「プロジェクト WET「木曾川流域版アクティビティ」体験会 in 木曾三川公園」の開催
7. 「プロジェクト WET の国際会議「Sustaining

the Blue Planet Conference」へ参加 【報告事項 3 河川健康公園・施設管理コー ナー】…………… P10

1. 第 1 回河川健康公園ゴルフ大会を開催しました
2. 豊平川雁来健康公園ジュニアゴルフレッスン会開催
3. 庄内川幸心健康公園施設撤去訓練
4. 「河川協力団体」の活動
5. 河川への理解を深める活動
6. 船頭平開門操作・事故対応訓練の実施

【河川整備基金コーナー】…………… P12

1. 平成 27 年度 河川整備基金助成事業募集中
2. 平成 26 年度河川整備基金助成事業成果発表会
3. 平成 27 年度 河川美化・緑化助成事業募集中

4. 平成 26 年度 河川美化・緑化助成事業 2 次募集で 5 件を新たに採択しました。

【出版紹介】…………… P14

1. 「総合土砂管理計画～流砂系の健全化に向けて～」
2. プロジェクト WET「木曾川流域版ガイドブック」
3. 「水辺の安全ハンドブック～川を知る。川を楽しむ～」全面改訂版

【お知らせ・募集】…………… P15

1. 河川整備基金助成事業成果および近畿事務所自主研究合同発表会の開催のお知らせ
2. 「平成 26 年度プロジェクト WET&WILD +PLT 合同全国大会」の開催
3. 「平成 26 年度川に学ぶ全国事例発表会」の開催
4. 「平成 26 年度河川教育研究交流会」の開催

巻頭言

源流域がつなぐ流域の未来

平成 26 年 9 月 6 日から 7 日にかけて、「第 5 回全国源流サミット」に参加するため、奈良県川上村を訪れました。川上村は、紀伊半島の奈良県、和歌山県を流れる紀の川流域の源流域の一つ、南北朝の舞台にもなった深い歴史を持ち、そして、紀伊山地の深い山々に寄り添って生きる村です。歴史、自然、そこに生きる人々に触れ、地域の営みを次の世代につなげたい、そのように率直に感じることができた感動がありました。

さて、皆さんは「源流域」にどのようなイメージをお持ちでしょうか。豊かな森林、美しい水と空気、自然と共生する里山の生活。このような美しいイメージをお持ちの方は多いと思います。しかし、源流白書やサミットで語られる源流域は、現在、急速な過疎化・少子高齢化、産業や技術を継承する担い手の不足、森林の荒廃など、非常に厳しい課題を抱えています。

今回川上村で開催された「源流サミット」は、毎年源流域で開催され、「全国源流の郷協議会」に参加する市町村をはじめ全国の源流のファンが参加し、全国の源流における課題を共有するとともに、解決策に関する熱心な議論を交わすものです。さらに本年は、9 月のサミット開催に先立ち、3 月に「源流白書～源流の危機は国土の危機～」が全国源流の郷協議会により発表されました。

この度、源流サミットに参加し、源流域の課題は流域全体の課題であり、源流域の未来は流域の未来につながるものであると改めて強く感じました。

例えば、近年の異常な降雨により災害のリスクが高まっている中、源流域の森林の荒廃を防ぐことは、土砂流出を抑制し、流域全体の洪水及び土砂災害の

リスクを低減させることにつながります。また、源流域の人々の生活を次世代につなげることは、歴史、文化、産業、自然等の観点から生活の場の多様性の維持につながります。



私たちは、この国土と共に生きていかなければなりません。人口減少、温暖化による気候変動等、今を生きる私たちがこれまでに経験したことのない時代を迎えるにあたり、次世代により良い状態の国土を引き継ぐため、災害リスクを可能な限り低減させること、また、生活の多様性を維持することは、今を生きる私たちの責任であると思います。

全国源流の郷協議会に参加する市町村においては、源流域の魅力の向上や上下流交流など、様々な取り組みが行われているところですが、このような観点からも、流域に住む人々、そして、幅広い関係者がその課題を自らのものとして共有するとともに、源流域の価値や可能性を見直し、責任・役割分担の下、流域の視点から、より一層力を合わせて課題を解決することが必要だと強く感じました。

国土交通省としても、河川管理者、また、国土を管理するという立場から流域の皆様と一緒に知恵を絞ってまいりたいと思います。本稿をご覧の皆様にも、是非一度源流域に足を運んでいただき、まずは何か一つでも源流域とご自身のつながりを感じていただければ幸いです。

東北地方整備局 副局長

(前 国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課長)

渥美 雅裕

Hot Topics

【東京都初】荒川・扇河川健康公園に本格的なパークゴルフ場がオープンしました

当財団が管理・運営を行う荒川・扇河川健康公園内に、18ホールの本格的なパークゴルフ場では東京都初となる「扇河川健康公園パークゴルフ場」が10月20日にオープンしました。



パークゴルフは北海道幕別町で生まれ、専用のクラブとボールを使いカップインまでの打数を競うスポーツです。誰でも簡単にプレイができ、子供から高齢者の方まで三世代で楽しむことができることから全国で親しまれています。

当パークゴルフ場は総面積 約 14,400㎡で、サクラコース9ホール、チューリップコース9ホールの2コース全18ホールあり、日本宝くじ協会の助成を受けて当財団が整備しました。サクラコースは初心者でも簡単に楽しむことができる優しいコース、チューリップコースは起伏に富み上級者の方にも満足いただける本格的なコースとなっています。グリーン及びコース内(フェアウェイ)については高麗芝、コース外は野芝を使用し、バンカー

を3箇所、コース間には河川環境に配慮して元々あるヨシ等の草や木を配置するなど、自然に優しいコースづくりを心掛けています。

また、近くには舍人ライナーや都営バス、コミュニティバスも通っているためアクセスしやすく、レンタルクラブやボールも用意しているので誰でも気軽に始めることができます。

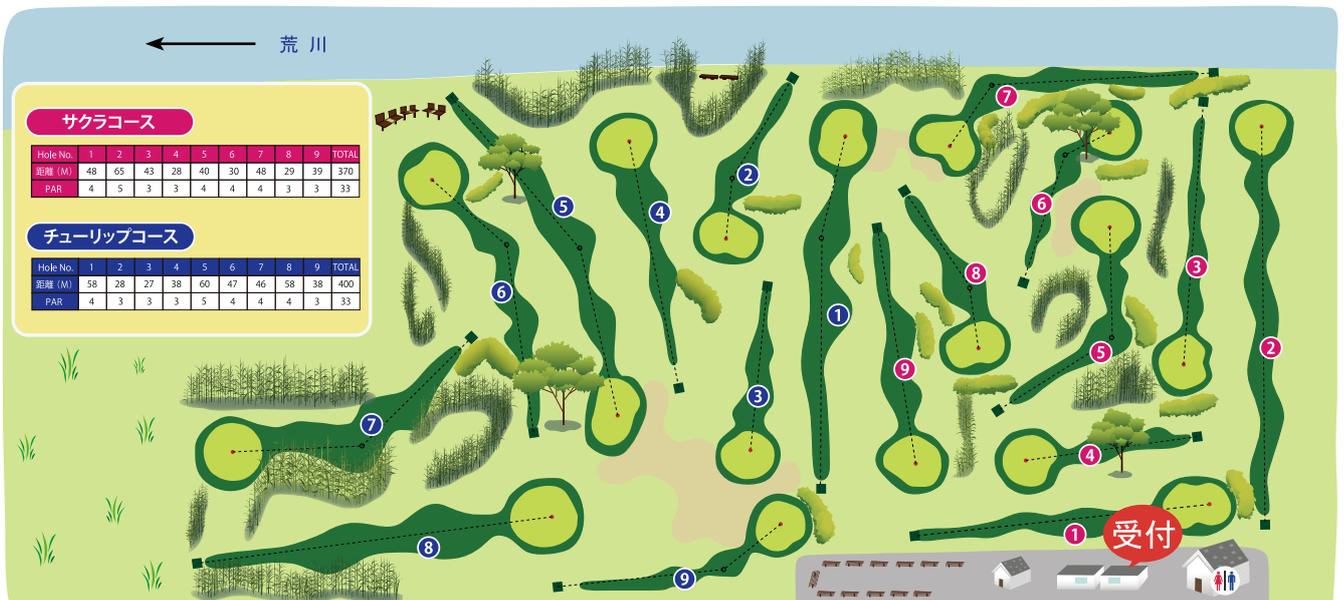
今後、荒川を利用される方々に楽しんでいただけるよう公認コースを目指すとともに、更なる河川利用の促進や健康増進に寄与する施設となることが期待されています。

荒川河川敷の緑と風を感じながら、心と身体の健康づくりをしませんか！

(担当：東京事務所)



東京スカイツリーをバックに上級者にも満足いただけるチューリップコース



コースガイド

特集

「河川研究セミナー」について

当財団では、河川の新たな調査研究課題のシーズ調査や啓発を目的として、国土交通省国土技術政策総合研究所及び独立行政法人土木研究所より講師をお招きし、「河川研究セミナー」を開催しています。

3回目となる平成26年度は、国土技術政策総合研究所のコーディネートにより「総合土砂管理」をテーマに取り上げ、4回のセミナーに延べ438名の方々に参加いただき盛況に開催されました。河川管理の現場では、近年まで進めてきた砂利採取や河川改修、または上流域からの土砂供給の減少などのインパクトに対する応答が河道管理の問題として顕在化している河川も多いと考えられます。一方、総合土砂管理については、平成10年に河川審議会答申「流砂系一貫した土砂管理」がまとめられてから15年を経過しましたが、総合土砂管理計画が策定されたのは未だ安倍川のみであり、河川管理の中に十分に実装されているとは言い難い状況です。セミナーでは、河川、海岸、砂防、ダム、環境分野を専門とする講師から現状と課題、実現の可能性等についてご講演をいただきましたので、その概要をご紹介します。



○第1回河川研究セミナー（H26.5.30開催）

「総合土砂管理の実践に必要な技術の基本－水系土砂動態と河道応答を基本として－」

講師：国土技術政策総合研究所 藤田光一 研究総務官

始めに、流砂系の土砂動態・漂砂を扱う上での基本として、河道を各セグメントに分け「河床材料 m、s、t」、「土砂輸送形態の混合型、通過型」、「有効粒径集団」による河床材料の捉え方について説明がありました。

続いて、ダムの研究成果や流砂系現況マップを紹介

され、ダムによる下流へのインパクトだけでなく、河川改修や砂利採取などの河川における直接的な作用も含めてトータルで見ることや、土砂動態を粒径集団別に見ることの重要性について説明がありました。



藤田講師

また、河川砂防技術基準の基本方針の記述から、総合土砂管理を進める際に、対象とする流砂系の全体像を捉えること、課題を生じさせている構図から流砂系への影響箇所を明確に読み取ること、総合土砂管理の課題に対する適切な要素技術の検討を組み入れることの3つの要件の重要性について指摘がありました。

最後に、総合土砂管理が抱える本質的な問題を探るうえで問題点や解決策についての論点を多数ご紹介いただき、聴講者からの活発な質疑にも丁寧にご回答をいただきました。

○第2回河川研究セミナー（H26.6.26開催）

「河道から見た総合土砂管理－供給土砂を明示的に取り込んだ河道設計・管理に向けて－」

講師：国土技術政策総合研究所 服部敦 河川研究室長

まず、河道設計の時に河道の変化を見込んでどのように土砂を取り扱うかを考慮すべきとの指摘とともに、そのツールとなる調査手法や解析手法等の具体事例を紹介いただきました。



服部講師

次に、上流からの供給土砂を取り込んだ河道設計が重要であることやその際に必要となる中長期的な河床変動の見方、上流からの供給土砂の取り込みだけでなく特に横断河床形状についての河道の条件を整えることも重要であるとの指摘がありました。

次に、総合土砂管理の牽引力となる事の多い一方で下流の河床が砂に埋れる等の難しさのあるダムの排砂について、流量 Q ・土砂流送量 Q_s に応じた砂の礫間詰まり具合の変化予測の研究成果を紹介し、ダムからの排砂技術の課題と展望について説明いただきました。

○第 3 回河川研究セミナー (H26.7.25 開催)

「海岸における土砂の役割」

講師：国土技術政策総合研究所 諏訪義雄 海岸研究室長

まず、海岸地形の特徴やハリケーンサンディにおける被害状況を説明いただき、内湾、外洋、遠浅、急深等の自然に形成される海岸地形が津波や高潮被害を軽減する役割を果たす自然インフラとして重要であることを指摘されました。



諏訪講師

次に、海浜を構成する土砂が色々な粒径の土砂により構成され、深さ方向にも分布があり、平面的にも大きく移動していることについて、各地の例を示して説明いただきました。また、総合土砂管理の観点から先進的な取り組みとして、静岡海岸（静岡県）の離岸堤や茅ヶ崎中海岸（神奈川県）のダムの浚渫土砂による養浜事業等の事例をご紹介いただきました。

最後に、総合土砂管理への期待として、海岸侵食の原因や静岡海岸・清水海岸（静岡県）でのトレンチ調査結果を示し、総合土砂管理による河川からの土砂供給への期待、さらには、海浜が期待する礫と砂のバランスの良い土砂供給への期待についてご説明いただきました。

○第 4 回河川研究セミナー (H26.8.27 開催)

「総合土砂管理における環境評価の考え方ー特に土砂供給が水生生物に及ぼす影響についてー」

講師：独立行政法人土木研究所 水環境研究グループ 河川生態チーム 萱場祐一 上席研究員

始めに、ダム下流における生物相の変化とその要因として、ダム下流の環境の捉え方をご説明いただきました。さらに、ダム直下及び近傍への影響の伝搬について、特に付着藻類、底生生物、魚類群集を取り上げ、河床材料の変化による影響を数理モデルや3ダムにおける現地調査結果からご説明いただきました。

次に、ダムから土砂供給を実施した際の水生生物への影響の評価についてリーチスケール・広域スケールの空間別に、生物多様性の視点を評価フレームとした方法についてご説明いただくとともに、今後の展望を説明いただきました。

「ダムにおける土砂供給(排砂)技術はどこまで進んでいるか」

講師：国土技術政策総合研究所 櫻井寿之 大規模河川構造物研究室主任研究官

まず、矢作ダムの逼迫した堆砂量増加問題を事例にダムの堆砂状況についてご説明いただきました。

ダムの下流への土砂供給(排砂)技術として、土砂還元、土砂フラッシング、土砂バイパス、開発中の土砂吸引工法等についてその概要や特徴を紹介いただくとともに、これら排砂技術を向上させるにあたっての課題をご説明いただきました。

全体討議「総合土砂管理に明日はあるのか」

コーディネーター：藤田光一講師、パネリスト：服部敦講師、諏訪義雄講師、萱場祐一講師、櫻井寿之講師

「総合土砂管理の技術的基盤となる山間部からの土砂発生量の推定についての現在の技術レベルは？」などの参加者からの活発な質問や意見に対し、講師の方々から回答やコメントをいただきながら進行了しました。



萱場講師

最後に各講師からのコメントとして、総合土砂管理の予算は課題の一つ／具体的に進めるのが大事／河川環境に光を当てる起爆剤としても総合土砂管理に注目／海岸への土砂供給は川を通すだけでなく直接でもよい／河川改修で河道掘削を行う場合には上流からの供給土砂を考えた河道設計を／等のコメントが有り、コーディネーターからは、このセミナーで終わりではなく、今後もさらに総合土砂管理を伸ばせるために考えていくきっかけとしていただきたい、として締めくくられました。



櫻井講師



なお、平成 26 年 8 月豪雨の対応のため急遽ご講演いただけなくなりました国土技術政策総合研究所土砂災害研究部の内田太郎主任研究員の講演については改めて 10 月 27 日に開催しました。

また、各講師の講演概要につきまして、河川財団ホームページに掲載する予定です。

(担当：河川総合研究所)

報告事項 1 (調査研究等)

1. 「第12回河川財団研究発表会」の開催

当財団では、研究成果を広く周知するために研究発表会を毎年開催しています。平成 26 年度は 7 月 17 日に都内の砂防会館別館にて開催し、国土交通省職員、地方自治体職員、建設コンサルタント、大学関係者等 150 名を超える方々にご参加いただきました。

研究発表会は特別講演と研究発表の順に進行し、特別講演では、「地質の会社で働く作家」と題し、以前建設関係のお仕事をされていた第 140 回芥川賞受賞作家の津村 記久子氏に、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境評価分析官 三橋さゆり氏の聞き手により対談形式によりご講演をいただきました。ご講演では、津村氏の著作活動のご紹介に始まり、単行本「ワーカーズ・ダイジェスト」中の作品に描かれている土木業界や技術者についてのエピソード、さらには現在もお住まいの大阪市内の川の印象などについて、ユーモアを交え楽しいお話をいただきました。

研究発表の部では、河川財団が平成 25 年度に自主研究や受託業務の中で行った調査研究の中から、「河川環境の保全、自然再生」、「戦略的な河川管理システムの構築」、「河川への理解、河川教育」の 3 つの分野について 8 課題の発表を行い、会場からもたくさんの指摘や質問をいただきました。

また、アンケートでは「財団としての見解をもっと聞かせてほしい」、「現場の実態についての詳しい説明がほしい」などの貴重なご意見を頂きました。今後の財団の活動に生かすとともに、来年度には更に充実した研究発表会を開催していく所存です。ご出席頂きました皆様に御礼を申し上げます。

(担当：企画部)



2. 戦略的維持管理研究について

当財団は 4 月に戦略的維持管理研究ユニットを設置し、河川の戦略的な維持管理のあり方についての研究を行っております。研究の実施にあたっては、河川行政や現場実務に反映いただくことが重要なことから、河川管理の政策担当者や実務担当者と連携し、政策や実務に貢献するための取り組みを行っています。具体的には、河川の維持管理上の諸課題について専門家を講師とする「河川研究会」や、具体的な研究課題についての検討会として「河川における戦略的な維持管理に関するコアグループ検討会」を開催しています。

河川研究会	〔開催形式〕 学識者等による講演会
	〔出席者〕 政策担当者、実務担当者、財団職員等
	〔開催状況〕 H26.4 以降のべ 7 回
河川における戦略的な維持管理に関するコアグループ検討会	〔開催形式〕 検討会
	〔開催状況〕 H26.9.26 に第 1 回を開催

今後、これらの取り組みを通じて得た成果については、研究発表会やセミナー、論文発表等を通じ、幅広く情報発信を行ってまいります。

(担当：維持管理研究ユニット)

3. 河川を学ぶ～平成 26 年度「河川塾」の活動状況～

当財団では、河川に対する基礎的知見を養い、河道特性を読み取る能力の向上を目的に、若手河川技術者の技術力研鑽に資する場として、河川総合研究所長（山本晃一）による「河川塾」を開催しています。

今年度で第 10 期となる初等科は 5 月 12 日に開講しました。5 月～11 月までに、座学を 25 回、現地視察を 3 回、計 28 回開催予定です。塾生は、建設コンサルタントや大学院生等の 21 名が参加しています。

去る 6 月 30 日には、河道特性を現地で理解する機会



実験施設の見学



手取川における現地調査

として多摩川下流部（登戸～六郷橋緑地付近）を訪れました。セグメント区分や砂州形状、河岸形成機構等について、山本塾長からの解説を交えながら現場を視察し、座学で学んだことについて、より理解を深めることができました。また、7月30日には、パシフィックコンサルタンツ（株）のご厚意により、同社つくば技術研究センターを見学させていただき、実験施設を通して流水による移動床の現象について知識を深めました。

また、「河道の維持管理論」をテーマとして7名の塾生により活動している高等科では、現地における河道管理の課題を理解するため、手取川の現地調査を行いました。現地調査では、河床低下や樹林化等の課題と原因、今後の対応等について、金沢河川国道事務所の担当者との意見交換を行いました。

（担当：河川総合研究所）

4. 平成25年度の受託業務の表彰について

平成 25 年度、当財団は国土交通省地方整備局等より懸案事項ソリューション支援、河川の維持管理や河道管

理、堤防植生、環境系（河川生態系、水循環系）河川教育等の分野の業務を受託しました。このうち、3件の業務に対し優良業務表彰又は事務所長表彰、優秀技術者表彰を受賞しました。

当財団が取り組んだ平成 25 年度受託業務について、12月頃に河川総合研究所報や調査研究概要としてとりまとめ、ホームページで紹介する予定です。

今後も調査研究成果の品質向上に取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

（担当：企画部）

表彰名	対象業務名	発注元
関東地方整備局長 優良業務表彰	H25 烏・神流川事業 計画検討業務（（株） 建設技術研究所（代 表者）とのJV）	関東地方整備局高崎 河川国道事務所
関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所長 優良業務・優秀技術 者表彰	H25 霞ヶ浦湖岸植生 検討業務	関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所
関東地方整備局 下館河川事務所長 優良業務・優秀技術 者表彰	H25 鬼怒川河道管理 検討業務（（株）建 設技術研究所との JV）	関東地方整備局 下館河川事務所

報告事項 2（河川教育関係）

1. 今年の水難事故の概要、 水難事故防止の啓発活動

当財団では河川水難事故に関する調査研究を行っています。2003年から2013年の11年間に当財団で収集した水難事故事例数は1861件です。

交通事故の死者数は13年連続で減少していますが、水難事故での死者数はこの11年間大きな変化はなく、毎年同じような事故が繰り返し起きています。今年も木曾川や多摩川をはじめとした河川で多くの水難事故が発生しました。

今年は海での水難事故も大きな話題となりましたが、同じ「水難事故」でも河川と海とでは、事故の傾向と対策は全く異なります。河川では常に水が速く流れ、瀬や淵などには複雑な流れがあることから、水辺や水の中の活動では、川に流された時のためにライフジャケットを着用することが安全、安心につながります。

当財団ではテレビ局、新聞・雑誌、Webマガジンへの取材協力等を通じ、河川における水難事故防止の啓発活動を行っています。

多くの河川利用者に「水辺の安全ハンドブック」や「安全な川遊びのために」をはじめとしたツールの内容を知っていただき、ライフジャケット等の装備を整えて川で安全に活動を行っていただけるよう、広報活動を続け

てまいります。

（担当：子どもの水辺サポートセンター）

2. 川の指導者（RACリーダー） 養成講習会の開催

「川に学ぶ」社会をめざすためには、次世代を担う子どもたちに川や水辺を活かした環境学習や体験活動をおして、川に関心を持ち理解してもらうことが重要です。

しかし、川や水辺には内在するさまざまな危険も存在することから、これらの危険を正しく理解し対処できるスキルを身につけ、安全に楽しく指導できる川の指導者の育成も不可欠です。



RACの理念の講習

当財団は、河川教育の普及・促進を図る一環として、NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会（略称：RAC）認定の川の指導者（RAC リーダー）養成講習会を職員向けに毎年開催し、川の指導者を養成しています。平成 26 年度は下記のとおり開催し、新たに 9 名が RAC リーダー（同時に、自然体験活動指導者（略称：NEAL）のリーダー）となりました。

【平成 26 年度川の指導者養成講習会の開催概要】

- ・日 時：平成 26 年 6 月 20 日（金）～ 22 日（日）の 3 日間
- ・場 所：日本橋消防署、都内会議室、荒川長瀬会場（会議室、荒川長瀬）
- ・参 加 者：受講者 9 名、スキルアップ参加者 2 名、指導者 9 名の合計 20 名
- ・講習会概要：8 科目 21 時間（座学 8 時間、実習 13 時間）+NEAL リーダー対応の 1 科目 1.5 時間（青少年教育における体験活動）（担当：子どもの水辺サポートセンター）



荒川長瀬における安全対策実習

3. E ボート指導者養成講習会の開催

川での体験活動の中で最も人気のあるアクティビティの一つに E ボート（空気注入式の 10 人乗りのゴムボート）があり、当財団では全国の学校や市民団体等へ貸し



E ボートの組み立て実習

出しを行っています。

しかし、E ボートも正しく組立・収納はもちろん、子どもたちや一般の方を乗船させて安全に操船するためには、正しい知識と操船技術の習得が必要です。このため、平成 25 年度に活動をスタートさせた「体験活動センターわたらせ」において、常備した E ボートの利活用を促進するために、E ボート指導者養成講習会を昨年度に引き続き下記の通り開催し、7 名の方が新たな指導者となりました。

【平成 26 年度 E ボート指導者養成講習会の開催概要】

- ・日 時：平成 26 年 7 月 23 日（火） 1 日間
- ・場 所：体験活動センターわたらせ、渡良瀬遊水地
- ・参 加 者：受講者 7 名、スキルアップ参加者 1 名、指導者 3 名の合計 11 名
- ・講習会概要：5 科目 5 時間（座学 1 時間、実習 4 時間）（担当：子どもの水辺サポートセンター）



E ボートの操船実習

4. RAC 学校リーダーの第 1 号が誕生！

次世代を担う子どもたちによる川や水辺をフィールドとした体験学習は、学校教育の中で取組んでもらうことが最も効果的であることから、NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会では、学校の教職員を対象とした川の指導者養成制度を平成 25 年度に創設しました。この度、当財



多摩川での安全対策などの実習

団と RAC は大田区立嶺町小学校の教職員を対象に初めての「RAC 学校リーダー養成講習会」を開催し、14名の先生が第1号の「RAC 学校リーダー」となりました。

その概要は、下記のとおりとなります。

【大田区立嶺町小学校 学校リーダー養成講習会の開催概要】

- ・日 時：平成 26 年 7 月 25 日（金） 7 時間
- ・場 所：嶺町小学校、多摩川
- ・参 加 者：受講者 20 名（内、修了者 14 名）、
指導者 4 名の合計 24 名
- ・講習会概要：4 科目 7 時間（座学 3 時間、実習 4 時間）
（担当：子どもの水辺サポートセンター）

5. 「第14回川に学ぶ体験活動全国大会 in 五ヶ瀬川」に参加

RAC では、「川に学ぶ」社会をめざす取り組みの一環として、毎年「川に学ぶ体験活動全国大会」を開催しています。平成 26 年度は「『伝統的な川文化』を継承する体験活動」をテーマに、9 月 20 日（土）～22 日（月）の 3 日間、五ヶ瀬川流域の宮崎県延岡市で開催されました。

『鮎やな』や『柴堰』、『チョン掛け』などの伝統漁法のほか、『霞堤』や『畳堤』などの治水施設が継承される自然と河川文化にあふれる五ヶ瀬川を舞台として充実した大会となりました。

【1 日目】

- 基調講演
演題…「流域と日本人のアイデンティティー」
講師…竹村公太郎（NPO 法人日本水フォーラム事務局長）
- 活動事例報告（地元から 4 事例、全国から 3 事例）
 - ①リバーフェスタのべおか実行委員会、②宮崎県立延岡工業高校土木科、③天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会、④NPO 法人白川流域リバーネットワーク、⑤青森県小川原湖自然楽校、⑥新潟県見附市、⑦東京都大田区立嶺町小学校
- パネルディスカッション
テーマ…「伝統的な川文化を継承する体験活動」と事例発表をふまえて
パネリスト…三橋さゆり（国土交通省河川環境課河川環境評価分析官）、名和あけみ（NPO 法人長良川環境レンジャー協会理事）、杉尾哲（NPO 法人大淀川流域ネットワーク代表理事）、首藤正治（延岡市長）
アドバイザー…竹村公太郎（前掲）
コーディネーター…土井裕子（大会実行委員長）

【2 日目】

- 分科会、全体会

①「川あそびのススメ」～川と教育、②「川の文化と継承」～未来に残す川づくり、③「川とまちづくり」～川を活かす可能性、④「川と防災」～水防災と地域力…の 4 分科会における話題提供と意見交換

- エクスカージョン…①五ヶ瀬川：E ボート体験、②源流北川：鮎のチョン掛け体験、③五ヶ瀬川：河川文化施設見学

【3 日目】

- エクスカージョン…神話の里：高千穂見学ツアー
（担当：子どもの水辺サポートセンター）



五ヶ瀬川に現存する伝統的水防工法『畳堤』（洪水時に家庭の畳を持ち寄り、畳堤のすき間に差し込んで被害をくい止めます）

6. 「プロジェクトWET『木曾川流域版アクティビティ』体験会in木曾三川公園」の開催

約 3 年の開発検討を経てこの春に公開されたプロジェクト WET「木曾川流域版ガイドブック」のアクティビティを流域内の河川公園関係者、行政関係者、利用者等に知っていただくための体験会が 6 月 7 日に国営木曾三川公園 138 タワーパークにて行われました。（主催：木曾三川公園管理センター 共催：河川財団 プロジェクト WET ジャパン）

体験会では、流域面積日本第 5 位である木曾川流域の概要や水利用、動植物等の事を体験的に学ぶための 6 つのアクティビティが実施されました。また、最後に行われた木曾三川公園関係者間のディスカッションでは、今後河川公園内でのイベントや講座等における本ガイドブックの活用方法についても話し合われました。



※プロジェクト WET「木曾川流域版ガイドブック」についてはP.14 出版コーナー「プロジェクト WET「木曾川流域版ガイドブック」」を参照。

(担当：子どもの水辺サポートセンター)

7.「プロジェクトWETの国際会議『Sustaining the Blue Planet Conference』」へ参加

米国のプロジェクト WET 財団主催による、水に関する教育にフォーカスした国際会議「Sustaining the Blue Planet Conference」の第2回が開催されました。世界各国のプロジェクト WET 加盟組織、教育関係者、企業、国際組織等約 100 人が一堂に会し、「テクノロジーと水教育」、「STEM（科学、テクノロジー、工学、数学）を組み込んだ水教育」等の様々なトピックスについて、全体討論やテーブルセッション、ポスターセッション等を交えながら情報交換がされました。

日本からはプロジェクト WET ジャパン事務局である当財団の菅原アソシエイトコーディネーターが出席し、日本における 12 年間のプロジェクト WET の普及状況、日本型講習会モデル、教材開発、分析と考察、

学校教育への普及展開の狙いと課題等について紹介し、各国や米国各州のコーディネーターと交流することができました。

この会議で得たノウハウや情報を、日本国内での講習会や全国大会等に活かし、プロジェクト WET の更なる普及展開につなげていきます。

- ・開催日：平成 26 年 6 月 23 日（月）～ 27 日（金）
 - ・開催地：アメリカ合衆国モンタナ州ビッグスカイ
- (担当：子どもの水辺サポートセンター)



菅原アソシエイトコーディネーターによる発表の様子

報告事項 3 (河川健康公園・施設管理コーナー)

1. 第 1 回河川健康公園ゴルフ大会を開催しました

地域の方々の世代間交流促進と健康増進を目的に、当財団の公益事業の一環として、多摩川河川健康公園において初の財団主催のゴルフ大会を開催しました。また、荒川・扇河川健康公園では、まったくの初心者であるジュニア世代でも参加できるようにクラブセットを用意しジュニア育成を目的としたレッスンを開催しました。

【第 1 回多摩川河川健康公園ゴルフ大会】

平成 26 年 8 月 5 日（火）絶好のゴルフ日和の中、一般、シニア、ジュニアの総勢 83 名が参加しました。また、今大会は川崎市の後援、大塚製薬、大塚食品からは優勝賞品のゴルフバッグや参加賞を、アサヒカルピス、伊藤園からは参加者の喉を潤すスポーツ飲料の協賛をいただきました。

主管である川崎市ゴルフ協会のご尽力により大会進行もスムーズに行われ、表彰式ではほとんどの参加者に賞品が授与されたこともあり、プレイと共に大変盛り上がりました。今後も、皆様に待ち望んでいただける大会と



して、趣向を凝らしていきたいと思っています。

【荒川・扇河川健康公園 ジュニアレッスン】

平成 26 年 7 月 28～31 日、8 月 1 日の 5 日間で 29 名が参加しジュニアレッスンを開催しました。

前半は、ゴルフ練習場でティーチングプロがそれぞれのジュニアのレベルに合わせたレッスンを行い、後半は「新東京都民ゴルフ」にご協力をいただき、ラウンドレッスンを行いました。練習場で学んだ成果をゴルフ場ですぐさま実践でき、参加したジュニアはもちろん、保護者の方にも大変喜んでいただきました。



クラブを握るのも初めてのジュニアから、連続参加というジュニアもいて、ジュニアレッスンも3年目に入り恒例の公益事業として地域の方々に浸透してきたと実感できるレッスンとなりました。

(担当：東京事務所)

2. 豊平川雁来健康公園 ジュニアゴルフレッスン会開催

豊平川雁来健康公園では、地域の方々の健康増進を目的として、平成26年6月28日(土)に日本ゴルフ協会北海道ゴルフ練習場連盟所属プロの協力を得て、ジュニアゴルフレッスン会を開催いたしました。



当日、5才～11才までの20名(男子9名、女子11名)が参加され、エチケット・マナー、ルール等の講習を行いパター練習を行った後に、ショートコースでラウンドレッスンを行い、参加したジュニア、保護者の方からは大変満足感じて頂きました。

(担当：北海道事務所)

3. 庄内川幸心健康公園施設撤去訓練

庄内川幸心健康公園に於いて、平成26年5月14日(水)10時から公園施設の撤去訓練を行いました。参加者は、庄内川河川事務所職員の立会いのもと公園利用者を含め

全員で約60名となりました。撤去訓練は開会式に始まり各パートに分かれ10時から11時まで訓練を行い、最後は庄内川河川事務所の講評により閉会しました。

訓練には、近年の集中豪雨などによる洪水が頻発しており社会的にも関心が高いことからか、マスコミによる取材を受けながらの訓練となりました。

実際の洪水の時にも、今回の撤去にかかる時間等を考慮し、気象情報、水文情報等を適確に把握し、手際よく洪水対策に努めてまいります。

(担当：名古屋事務所)



ゴルフ練習場ユニットハウス撤去状況

4. 「河川協力団体」の活動

当財団は昨年度末に国土交通省から多摩川、庄内川、豊平川において、水防法及び河川法の一部を改正する法律に基づく「河川協力団体」の指定を受け、今年度より河川協力団体としての活動を行っています。

多摩川では、健康公園に隣接した堤防の川表側法面の除草、簡易水洗トイレ



名古屋事務所による子供向けの河川教育の様子



豊平川における河川清掃の様子

の設置を行っているほか、庄内川では健康公園に隣接した堤防の川表側法面の除草や出水期前の施設撤去訓練、一般市民への河川教育を、豊平川では健康公園に隣接した堤防の川表側法面の除草やゴミ清掃、不法投棄物の撤去を行っています。

(担当：東京・名古屋・北海道事務所)

5. 河川への理解を深める活動

当財団では、川の楽しさや川で安全に学び・遊ぶための基本的な知識等について、各地で啓発となる活動を



木曾三川連合総合水防演習におけるEボート展示



野洲川総合水防演習におけるパネル展示

行っています。

名古屋事務所では、平成 26 年 5 月 18 日に三重県桑名市で開催された木曾三川連合総合水防演習・広域連携防災訓練のメイン会場のブースにおいてパネル展示やEボート展示を行いました。

近畿事務所では、平成 26 年 5 月 11 日に滋賀県野洲市で開催された野洲川総合水防演習に初めて参加し、平成 25 年 9 月台風 18 号による淀川水系の出水状況やプロジェクト WET についてのパネル展示や水辺の安全ハンドブックの配布を行いました。

(担当：名古屋事務所、近畿事務所)

6. 船頭平閘門操作・事故対応訓練の実施

当財団が管理を行っている木曾三川下流部の船頭平閘門において、閘門利用者と操作関連者に対する閘門操作・事故対応訓練を 6 月 21 日（土）に実施しました。船舶の係留施設を対象とした船舶所有者の安全退避訓練や水質事故訓練、地元消防隊員の協力により水難事故時の救出訓練や人命救助訓練（AED 操作方法等）も合わせて実施しました。

(担当：名古屋事務所)



重要文化財指定された船頭平閘門のゲートの手動操作訓練

河川整備基金コーナー

1. 平成 27 年度 河川整備基金助成事業 募集中

平成 27 年度河川整備基金助成事業の募集を下記のとおり行います。申請はインターネットによるオンラインによる申請のみとなります。メールや郵送での申請はできませんのでご注意ください。

募集開始：平成 26 年 10 月 1 日（水）

募集締切：平成 26 年 11 月 28 日（金）18 時まで

上記期間を過ぎると、申請を受け付けることができませんので、ご注意ください。

申請書様式等につきましては、河川整備基金のホームページに掲載しています。

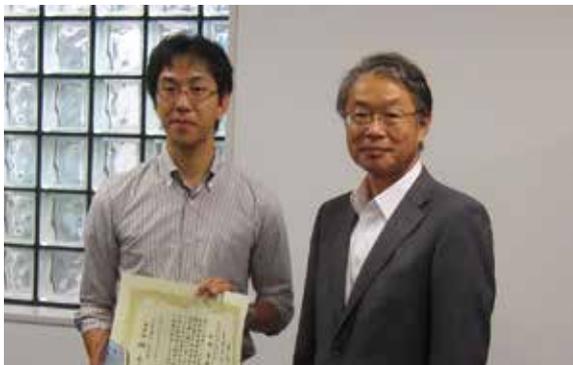
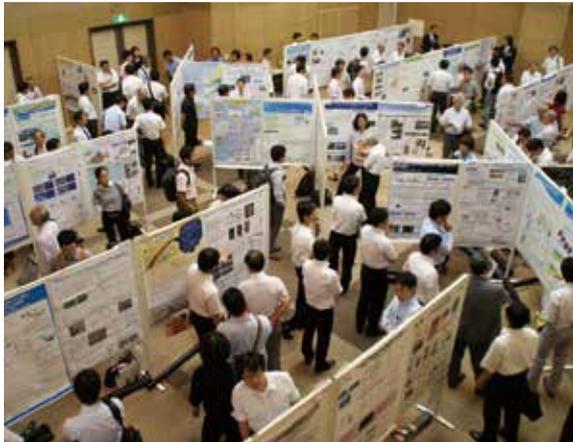
なお近年、長期にわたり低金利傾向が続く中、河川整備基金の運用益を原資とする助成事業の予算確保が困難となってきており、助成事業と助成資金のあり方について現在、幅広い検討を行っております。このため、助成期間が複数年にわたり助成金額が大きい調査・研究部門の「指定課題助成」及び「共同的研究助成」については、平成 27 年度の新規募集は行わないこととします。詳細については河川整備基金のホームページをご覧ください。

(担当：子どもの水辺サポートセンター)

2. 平成 26年度 河川整備基金助成事業成果発表会

本成果発表会は、河川整備基金助成事業の成果をできるだけ多くの方々に共有の財産として周知を図り、広く活用していただくとともに、助成事業の一層の充実を図ることを目的として毎年開催しているものです。

今回の発表会は、新たな試みとして、平成 25 年度助成事業の調査・研究部門の全助成事業者 132 件を対象として、その成果の概要を 2 分以内で説明する「口頭発表」と、発表者と参加者の間で直に質疑応答や意見交換を行う「ポスターセッション」の二部構成で実施しました。



最優秀賞 加納准教授

また当日の全発表者の中から特に優秀な発表を行った助成事業者の方を来場者からの投票で選出し、「優秀成果発表者賞」として、賞状とトロフィーを贈呈しました。

なお、平成 25 年度の成果報告書の詳細については当財団ホームページに掲載しています。

開催日時：平成 26 年 7 月 29 日（火）9：00～18：30

開催場所：砂防会館「シェンバッハ・サボー」

参加者数：268 名（発表者 126 名を含む）

優秀発表者賞

○最優秀賞

日本国際湿地保全連合

（茨城大学 准教授） 加納 光樹様

○優秀賞（2 件）

東京大学大学院 教授 木村 伸吾様

京都大学 教授 水山 高久様

（担当：子どもの水辺サポートセンター）

3. 平成 27年度 河川美化・緑化助成事業 募集中

公益社団法人ゴルフ緑化促進会（略称 G.G.G.）の会員であるゴルフ場でプレイするゴルファーから寄付された緑化協力金の一部を G.G.G. から交付を受け、寄付に協力いただいた河川敷ゴルフ場の所在する水系を対象に「河川美化・緑化助成事業」を募集しています。

平成 27 年度河川美化・緑化助成事業の募集は下記のとおりです。申請はメールでの受付となります。FAX や郵送での申請はできませんのでご注意ください。

募集開始：平成 26 年 10 月 1 日（水）

募集締切：平成 26 年 11 月 28 日（金）18 時まで

上記期間を過ぎると、申請を受け付けることができませんので、ご注意ください。

申請書様式等につきましては、当財団のホームページに掲載しています。助成対象の水系や助成限度額等、詳細については当財団のホームページをご覧ください。

（担当：子どもの水辺サポートセンター）

4. 平成26年度 河川美化・緑化助成事業 2次募集で5件を新たに採択しました。

平成 26 年度の河川美化・緑化助成事業では、応募が助成可能額を下回ったため 2 次募集を行なってりましたが、この度次の 5 件を新たに採択しました。

地方	水系	申請者	申請事業名
東北	阿武隈川	福島県 三春町 町長	福島県三春町もみじ山河川美化・緑化整備事業
関東	利根川	NPO 法人足尾に緑を育てる会 会長	体験植樹による渡良瀬川源流の森再生事業
	荒川	特定非営利活動法人 森 理事長	秩父市中津川滝沢ダム湖畔 美化・緑化事業
九州	筑後川	福岡県 大刀洗町 町長	大刀洗町下高橋官衛遺跡公園 河川美化・緑化事業
	大淀川	宮崎市 市長	橘公園緑化修景事業

（担当：子どもの水辺サポートセンター）

出版紹介

1. 「総合土砂管理計画～流砂系の健全化に向けて～」

総合土砂管理という概念が社会化されたのは、平成 10（1998）年の河川審議会の答申「流砂系の総合的な土砂管理に向けて」でした。その後、建設省河川局が主導し、砂防・河川・海岸部門での調査研究がなされ、流砂系に関わる公的管理部門に携わる技術者間での認知度が向上しましたが、いまだ流砂系で



の土砂動態や土砂の分級機構についての理解が進んでいません。そのため、土砂動態に影響を与える、逆に土砂動態の影響を受ける流砂系に携わる各事業者では、土砂動態に関する基本的知見・理論の共通化がなされていないことから、総合土砂管理の実態化は遅れている状況です。

一方、近い将来、気候変動に伴う海面上昇、洪水規模の増大が予測され、流砂系の変化、海岸侵食の激化が懸念されています。流砂系に関する理論とその認知、対応方策の提示が強く求められています。

これらの問題意識のもと、「総合土砂管理論」を当財団主催の河川塾高等科の自主研究課題（平成 24 年、25 年前期）として設定し、調査・研究を行ってきました。本書は、河川塾高等科の成果報告をとりまとめたものです。

本書における内容は、総合土砂管理思想の変遷、総合土砂管理に関わる概念（理論）の提示、流砂系における土砂動態の実態と評価手法、土砂の制御技術、土砂の量的・質的不確実性の計画論への反映方法、総合土砂管理計画の基本構想と計画思案を取り扱っています。

目次構成は、以下のとおりです。

- 第 1 章 序論
- 第 2 章 総合土砂管理の思想史
- 第 3 章 土砂動態に関する基礎的知見と概念
- 第 4 章 山間部の土砂動態の評価
- 第 5 章 沖積河道部の土砂動態の評価
- 第 6 章 海岸部の土砂動態の評価

- 第 7 章 総合土砂管理計画の基本構想
- 第 8 章 総合土砂管理計画策定フローと方法
- 第 9 章 今後の課題

販売価格は、4,400 円 + 税です。

なお、著者らによる発刊セミナーを開催します。詳しくは当財団のホームページを御覧ください。

〔東京会場〕

開催日時：平成 26 年 11 月 25 日（火）13：00～16：00

開催場所：秋葉原ビジネスセンター AP 秋葉原 5 階

〔大阪会場〕

開催日時：平成 26 年 12 月 5 日（金）13：30～16：30

開催場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター

（ドーンセンター）5 階

（担当：河川総合研究所）

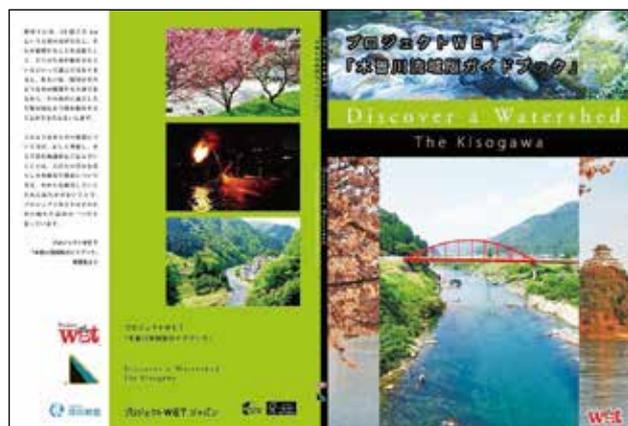
2. プロジェクト WET 「木曽川流域版ガイドブック」

米国のプロジェクト WET が開発した流域を学ぶ体験型学習プログラム「Discover a Watershed」は、ミズーリ川流域版、コロラド川流域版等、様々な地域版プログラムとして普及が進んでいます。

このたびプロジェクト WET ジャパン事務局では、約 3 年の検討期間を経て、日本において「プロジェクト WET」の初の流域版教材となる「木曽川流域版ガイドブック」を作成し、販売することと致しました。

本ガイドブックには、木曽川の自然環境、歴史や文化、動植物等について楽しく学べる 12 のアクティビティが盛り込まれています。

通常のガイドブックは講習会を受講された方へ配布しておりますが、本ガイドブックは地域版教材のため、木曽川流域に興味・関心のある方であればどなたでも購入・使用することができます。販売価格は、2,500 円（税込）です。



本ガイドブックを、木曾川流域を学ぼうとする方々だけでなく、それぞれの地域の「流域」について学び、理解するためのツールの参考として様々な流域でご活用ください。

(担当：子どもの水辺サポートセンター)

3. 「水辺の安全ハンドブック～川を知る。川を楽しむ～」全面改訂版

川や水辺をフィールドとした環境学習や体験活動では、安全が最優先となります。当財団では、平成12年度から水難事故防止に向けた啓発活動の一環として、川や水辺に内在するさまざまな危険やこれらの危険に対する知識・準備・心構えなどについてまとめた「水辺の安全ハンドブック」を作成し、内容の改訂・増刷を行い全国の多くの河川利用者に活用していただけてきました。

この度、最新の情報を加え、より見やすく全面的な改訂を行い、本年7月に発刊し、多くの皆様に購入・活用

していただいております。

販売価格は、108円／冊（税込）です。

申し込み方法は、当財団ならびに子どもの水辺サポートセンターのホームページをご覧ください。

(担当：子どもの水辺サポートセンター)



お知らせ・募集

1. 河川整備基金助成事業成果および近畿事務所自主研究合同発表会の開催のお知らせ

近畿事務所では、河川整備基金助成事業成果および近畿事務所自主研究の合同発表会を開催します。

今年は、一般社団法人水都大阪パートナーズ 代表理事 高梨日出夫による特別講演「公共空間を活かした賑わいづくりを通してつくる水都の魅力」のほか、平成25年度の河川整備基金助成事業の成果125題の中から現在話題になっている研究を主体に6題、近畿事務所の自主研究から2題の発表を予定しております。

開催日時 12月10日 10:00～17:00

開催場所 OMMビル2階（大阪市中央区）

詳細は、当財団のホームページをご覧ください。

(担当：近畿事務所)

2. 「平成26年度プロジェクト WET&WILD+PLT合同全国大会」の開催

体験型水教育プログラム「プロジェクト WET」としては第6回目となる全国大会を姉妹プログラムである「プロジェクト WILD」及び「PLT（プロジェクト・ラーニング・ツリー）」と合同で開催致します。



平成25年度プロジェクト WET&WILD+PLT 合同全国大会

今年度の講演は、昆虫料理研究家の内山昭様をお招きし、昆虫料理の良さなどについてお話をいただきます。

プログラム内容についても、昨年度と異なり、新たな試みとして「ステーションプログラム」を設けます。

是非スケジュールをご確認の上、ご参加いただけますようお願い致します。

開催日：平成27年1月17日（土）～18日（日）

開催場所：ロッジ舞洲（大阪市此花区）

定員：80名

応募対象：プロジェクト WET や WILD、PLT の指導者または、体験型の教育プログラムに興味のある方

(担当：子どもの水辺サポートセンター)

3.「平成 26 年度川に学ぶ 全国事例発表会」の開催

子どもの水辺サポートセンターでは、子どもたちの水辺での体験活動を推進するために、市民団体の方々、教育関係者、河川管理者等による活動を支援しています。その一環として、市民団体や学校等が実施している河川体験活動の事例発表会を毎年開催しており、今回で13回目となります。

今年度の発表会では、水辺を活かした体験活動に取り組んでいる市民団体からの事例紹介や意見交換を行います。日頃、皆さんが感じている課題の解決と参加者間の交流の場となりますので是非ご参加ください。

詳細は、当財団のホームページをご覧ください。

開催日：平成 27 年 1 月 30 日（金）

会場：東京大学 山上会館（東京都文京区）

定員：100 名（参加費無料）

（担当：子どもの水辺サポートセンター）



平成 25 年度川に学ぶ全国事例発表会の様子

4.「平成 26 年度河川教育研究交流会」 の開催

当財団では、川や水辺を活かしたさまざまな体験活動等とおして、河川教育の普及・展開を推進するためにさまざまな取組みを支援しています。河川整備基金助成事業の成果として学校の教育現場で積み重ねられてきた経験や知識を、学校教育関係者間・河川管理者や市民団体等の中で共有し、互いに連携することで、学校における河川教育の取り組みが、児童・生徒の健全な育成に大きく寄与し、今後の河川教育の推進に資するように、今回初めての「河川教育研究交流会」を下記の日程で開催しますので、是非ご参加ください。

詳細は、当財団のホームページをご覧ください。

開催日：平成 27 年 1 月 31 日（土）

会場：東京海洋大学 品川キャンパス「白鷹館」
（東京都品川区）

定員：300 名（参加費無料）

（担当：子どもの水辺サポートセンター）



編集
発行



公益財団法人 河川財団

編集事務局 企画部 担当：安原

本部 〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F)
<http://www.kasen.or.jp/>
E-mail:info@kasen.or.jp

総務部 TEL 03-5847-8301 FAX 03-5847-8308

企画部 TEL 03-5847-8302 FAX 03-5847-8308

河川総合研究所
(戦略的維持管理研究ユニット)
TEL 03-5847-8304 FAX 03-5847-8309

東京事務所 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310

子どもの水辺サポートセンター
TEL 03-5847-8307 FAX 03-5847-8314
<http://www.mizube-support-center.org/>
E-mail:misc@mizube-support-center.org

(整備基金担当) TEL 03-5847-8303 FAX 03-5847-8309

北海道事務所 〒060-0061
札幌市中央区南1条西7丁目16-2 (岩倉ビル2階)
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953
<http://www.kasen.or.jp/hokkaido/>
E-mail:info-h@hk.kasen.or.jp

名古屋事務所 〒463-0068
名古屋市守山区瀬古3丁目710番地
TEL 052-388-7891 FAX 052-388-7918
<http://www.kasen.or.jp/nagoya/>
E-mail:info-n@nagoya.kasen.or.jp

近畿事務所 〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル13F)
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118
E-mail:info-o@osaka.kasen.or.jp